

公民館報たかぎ

題字：澤井 広純

写真：喬木カメラクラブ 目谷 朋代

【第665号】

発行日 2025年11月14日

発行責任者 喬木村公民館長

林 司

編集責任者 公民館広報部長

池田 英明

印刷 龍共印刷株式会社

芸術祭 開催

「芸術祭」が開催され、村民の皆様の文化・芸術活動の成果が披露されました。名もの多くの方々にご来場いただき、盛大に開催することができました。取り組まれているのか取材を行いました。

なずなの会

「なずなの会」では、「なずなカフェ」をアスポで毎月第2・第4火曜日10時～12時に開催しています。ここでは、認知症の方やそのご家族、介護をされている方々が同じような立場の方同士で、お茶を飲みながら、日々の不安や悩みを気軽に話し合うことができます。

「なずな」は、ぺんぺん草ともいい、道端や畑などいたるところに生えていますが、踏みつけられてもたくましく再び起き上がり花を咲かせる、そのイメージから「なずなの会」という名称をつけたとお話してくれました。初めて会う人同士でも自然と会話がはずむ、あたたかい雰囲気を感じられます。



南ゆったりサロン

文化展示に初めて参加の「ゆったりサロン」さん。10月27日、10:30. アスポスタジオには8名の女性が輪になって座りボールを使った運動をしていました。このサロン、3～4年前から主に南農事集会所で活動を始めました。当初は、太極拳をビデオで見て行っていました。もっと自由に様々な活動をしたいと考え、会員の意見から生け花、こんにやく作り、紅葉狩り、カルタ取り、お手玉作り、肩たたき棒づくり、健康体操や運動など、いろいろな活動を続けています。「この会に来てみなさんと活動したりお話ししたりできることがとっても楽しみ」と、おっしゃる女性もおり、みなさんが楽しんでる姿が印象的でした。

主宰の内山ヒロ子さんは、以前は事務の仕事をしており地域とのつながりがなかったものの、民生委員での研修を経て、このサロンの立ち上げを考えたそうです。「私もみなさんと活動するのがうれしくて」とおっしゃる笑顔がとても素敵でした。

今年は、年に5回ほど行っている生け花をアスポに展示しました。



北分館



梶牛原分館



伊久間分館



たかぎ短歌会



真浄寺書道会



喬木カメラクラブ



富田陶芸クラブ



たかぎガーデニングクラブ



七宝焼き



湯沢雲揚堂

令和7年度

喬木村

11月5日～9日までの5日間、主に福祉センターを会場とする「喬木村芸術期間中は、39団体から寄せられた個性豊かな作品を観ようと、延べ400本誌では、その中から4団体にスポットを当て、普段どのような活動に取

阿島傘の会

阿島傘の会は、阿島傘伝承館の建設を機に平成6年（1994年）発足し約30年の長きにわたり、江戸の中期より脈々と受け継がれた傘の歴史や技術の継承保存のため、毎月定例会を開催しています。

また多くの方々に阿島傘を広く知っていただくため、阿島傘伝承館・資料館を訪れるみなさんに阿島傘のことを伝えたり、傘づくり体験教室を実施したりしています。中でも、喬木第一小学校4年生の傘づくり体験授業は20年以上の歴史を持ち、地域の伝統技術に触れる良い機会となっています。



編物クラブ

編物クラブは2003年から活動しているそうです。制作するのは、普段使いの小物から、お孫さんやご家族へ贈るバッグやセーターなど十人十色で、講師の先生の丁寧な指導のもと、それぞれが自分のペースで進めているそうです。

クラブの皆さんからは、仲間とお茶を飲みながらおしゃべりをするのも楽しいという声が聞かれました。今後もゆる～く楽しみながらマイペースに進めていきたいとのこと。



喬木まつり開催

「美し郷 喬木まつり」が9月20日たかぎ保育園一帯を会場に盛大に開催されました。公民館主催のメインステージの様子をお届けします。

ラーメン大好き～♪
ラーメンおかわり～♪



みんなで踊ろう！（保育園）

音楽に合わせてドリブル！



喬木ミニバスケットボールクラブ

元気に！かわいく！



たかぎいちごキッズ

聴き入る歌声・・・！



RiTzHm

舞台って楽しい！



マンサーナ

ふるさとの踊り
「喬木音頭」「喬木小唄」を
みんなで輪になって・・・





弁護士 菊地幸夫氏 講演会

10/12 開催

公民館楽遊塾第2講座

「世の中うまい話はない！
知って防ごう消費者トラブル」

楽遊塾第2講座では、テレビでお馴染みの菊地弁護士をお招きし、最近の事例を交えながらインターネット、電話、訪問など消費者トラブルを未然に防ぐためのポイントについて講演いただきました。

テレビでもよく拝見している菊地先生が講演に来て頂けるとあって、わくわくドキドキでした。電車で来られると言いつつ、お迎えに行きました。東京からお一人で来て、トライアスロンが趣味というだけあり、思ったよりもがっちりした体格の方でした。駐車場から車をそばまで持ってきてこうとしたら「そこまで行きますよ」と、一緒に来て下さりとても気さくな方でした。

講演会でもそんなお人柄が出て会場は、和やかな雰囲気になりました。菊地先生自らが会場の方にインタビューしたり、いろいろな事例を実演を交えながら話して下さったりと、楽しくてためになった講演会でした。講演会を聞いて、だまされないために、焦って判断するのではなく、とにかく落ち着いて、誰かに相談することが大事だと思いました。ちょっと待てよ、本当にそうだったっけ？と考えられるように！

とても良い講演会でしたが、参加者が少なかったのが残念でした。もっと多くの方達に聞いて欲しかった。ただ、帰りに菊地先生が、「とても反応の良い参加者の方達が良かったです。」とおっしゃって下さり、ホッとしました。

参加して下さった皆さま、ありがとうございました。

令和7年度 第2回公民館平和学習会

「日本被団協のノーベル平和賞受賞に学ぶ」

工藤雅子氏講演会



日本被団協事務室長で飯田市出身の工藤雅子さんの講演会が行われ74名の方が参加しました。長崎と広島に原爆が投下されてから80年。「人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許されない」後遺症で苦しむ中、偏見と差別にも苦しまなければならなかったことを思うと胸が痛みます。被団協は「国家補償」と「核兵器廃絶」を求めて活動してきました。「被害者に対する国の補償は同じ被害を起ささないための第一歩」なのです。しかし国は「国を挙げての戦争による一般の犠牲として、全ての国民が等しく受忍しなければならぬ」と未だに国家補償を拒否したままです。この「受忍論」は被爆者や過去の戦争被害者だけに向けられたものでもなく、私たち国民に向けられたものなのです。

被団協が結成されて69年。被爆の実態を自らの手で調査し「核兵器は人間と共存できない反人間的な絶対悪兵器」と国内、国連など国際的にも核兵器のない世界の実現を地道に訴え続けた事が評価されノーベル平和賞受賞となりました。

そして、今後、継承して行かなければならない事は体験の継承ではなく「核兵器廃絶の継承」と締められました。

【参加者の感想】

- ・ 色々具体的なお話が伺えてとても感動しました。飯田ご出身の工藤さんという事で被団協のことが身近に感じることが出来ました。
- ・ 戦争被害の「受忍論」に驚いた！
- ・ 被団協の方々、被爆者の方々の地道な活動を改めて知る良い機会でした。核兵器禁止条約への加入が一日でも早く実現できるように願うばかりです。
- ・ 被団協が核兵器廃絶を世界に訴え続けて来たことを私たち国民が自分の問題として核兵器を無くすことを広げて行かなければならないと改めて考えさせられた学習会でした。



喬木村俳句会 神無月句会 詠草

何処か（いずこ）と振り向く窓の秋の風
山の端（はし）の月誘（いざな）ふや虫の声

木下 瑞恵

競（きさ）ひ合（あ）ふ艶（つや）と丸（まる）みと栗（栗）ひとつ
秋雨（あきさめ）や涙（なみだ）で語る能登（のの）の人

矢澤恵美子

人知（ま）れぬ風（かぜ）ゆれやまぬ曼殊沙華（まんじゆしゃげ）
古寺（こじ）の味（あじ）くるみおはぎの手（て）の温（ぬ）み

松島みのり

我（われ）忘れ孫（まご）と戯（たわぶ）れ秋（あき）の浜（なみ）
満月（まんげつ）や映画（えいが）の如（ごと）く雲（くも）流（なが）る

宮島 高枝

金（きん）木（も）犀（ぎ）父母（ふぼ）の聲（こゑ）遥（はる）かなり
老女（らうじよ）らへ色（いろ）なき風（かぜ）やケ（け）ーキ（き）食（は）ぶ

西元くにこ

分け入（ま）りし松茸（まつたけ）の代（しろ）揃（そろ）ひ踏（ふ）み
雲（くも）流（なが）る稲穂（いなほ）のうねり父（ちち）の顔（かほ）

村山たか子

老人（らうじん）会（かい）杖（つえ）付（つ）くふたり柿（かき）日（ひ）和（や）
秋（あき）耕（かう）や蜻蛉（せいてん）群（ぐん）れ飛（と）ぶ澄（す）みし空（そら）

原 美恵子

若人（わかくし）のベ（べ）ージ（ジ）ユ（ユ）のベ（ベ）ス（ス）ト（ト）涼（りやう）新（あらた）
出稼（でかせ）ぎの父（ちち）の手（て）みやけ木通（あけの）の実（み）

松葉 孝子

躑（つまつ）きて石（いし）の響（ひび）きや秋（あき）暮（あつ）し
紅葉（もみぢ）散（ち）る裏（うら）に表（あへ）に返（かえ）しつ（つ）つ

市橋 ヨリ

母（はは）逝（ゆ）きて小窓（こまど）に溢（あふ）ぶ木犀（もくせい）の香（か）
母（はは）の忌（い）や鬼灯（おにとう）鳴（な）らす風（かぜ）の唄（うた）

吉川てる子

たかぎ短歌会 神無月 詠草

涼風（りやうかぜ）にかすかな虫（むし）の音（ね）ききながら枕辺（まくらべ）の書（か）を夜半（よるなか）に親（お）しむ

知久 美子

転倒（てんたう）後（ご）日（ひ）々（々）回（かえ）りし一年（いちねん）経（た）ぬ友（とも）涙（なみだ）ぐみ「よかつたね」とふ

田中 妙子

底（そこ）冷（ひや）えの今夜（こんや）は豚汁（とん汁）レシ（レシ）見て具沢山（ぐさくざん）の野菜（やさい）を刻（く）む

木下 寿子

我（われ）が里（さと）の敬老会（けいらうかい）に招（まね）かれて友（とも）と語（かた）れば心華（こころばな）やぐ

木林 睦枝

わが夫（おとこ）は入退院（にゅうたいえん）を繰（くり）返し盆（ぼん）のおわり（わり）に遂（ついに）に身（み）罷（た）る

和田 京子

椋鳩十（むらぎとむ）生誕（せいだん）百二十年（ひゃくにじゅうねん）に思（おも）ひ馳（は）せしばし彷徨（さまよ）ふ活字（かっし）の林（はやし）

塩澤真由美

百五歳（ひゃくごさい）のお棺（おくわん）の伯母（おば）へ息子（おこ）等（ら）は鰻（うなぎ）を供（たま）う我（われ）は魂（たま）消（き）たり

内山 貴子

い（い）た（た）だ（だ）き（き）し（し）月（づ）下（げ）美（み）人（にん）の鉢（ひち）植（う）えを冬（ふゆ）に備（たも）て植（う）え替（か）えをせり

市瀬 准子

山畑（やまはた）の雑草（ざっそう）強（つよ）く根（ね）を張（は）るを引（ひ）き抜（ぬ）く脇（わき）に冬（ふゆ）のすみれ草（くさ）

小椋 りよ

この秋（あき）の熊（くま）の出没案（しゅつぱくあん）じつ（じつ）つ入（い）札（は）茸（たけのこ）山（やま）へ行（い）く夫（おとこ）送（おく）る

内山 和子

三日（さんじつ）後（ご）と手術（じゆげつ）の日程（にちてい）決（き）まりたり激痛（げきつう）なれば待（まち）つ間（ま）の長（なが）し

元島 康子

さらばへし枯（か）れ木（き）の足（あし）しなき血（ち）を吸（す）ふな蚊（か）蚊（か）よもつと若木（わかぎ）を狙（ねら）へ

福澤 亀人

第30回 喬木村村民ゴルフ大会

10月16日(木)開催

第30回を迎えた村民ゴルフ大会は、飯田カントリー倶楽部で開催され、12分館97名が参加されました。男性70歳未満の部51名と70歳以上及び女性の部46名の個人戦と、12分館による団体戦が行われました。団体戦では、伊久間分館が優勝、個人戦では林健太郎さん（北）、吉川正隆さん（伊久間）が一位となりました。おめでとうございました。当番地区の上分館のみなさん、および参加された方々お疲れさまでした。

優勝

団体戦…伊久間分館
個人戦…林 健太郎（北）

吉川 正隆（伊久間）



お知らせ

第38回 椋鳩十夕やけ祭

日時：令和7年11月30日(日)
 13:00～※記念講演会は14:30～
 内容：表彰式 / 記念講演会

講師：久保田 里花さん
 場所：福祉センター多目的ホール

公民館楽遊塾 第3講座

日時：令和7年12月7日(日)
 10:00～12:00

場所：第一公民館
 内容：鏡餅づくり体験
 対象：村内小学生及び園児
 参加費：100円/人

お問合せ 喬木村公民館 0265-33-2002

あのとき、このとき

公民館長



一昨年の5月、中野市で起きた殺人事件(女性2名、警察官2名)の判決が10月になりました……「死刑」。

被告は、小中学校では野球でキャッチャー。将来は医者への希望をもち、高校では山岳部に所属。体力のない仲間の荷物を持ちたり山で飲み水が足りない時に分けてあげたりなどができる生徒だったそうです。ただ、人に話しかけるのが苦手で、これは彼の特性からくるものでした。この特

性について両親は気づいていませんでしたが、医療機関や周囲には相談していなかったといいます。大学進学も両親の強い意向があったと報道されています。

被告が「ぼっち」と言われると訴えるようになったのは行きたくなかった大学入学後。精神的に疲れてしまい、中退を選択しました。

悪いことをすれば罰せられるのは当然でもあります。では、なぜこんな結末に……。

子どもの発達にはひとり一人に特性があります。千差万別。私自身にもあります。今学校に在籍する子どもの中にも、こつこつした特性をもった子どももいます。こつこつした子どもの中には、学校では本来の自分を表現できず仲間とトラブルになることがあるのに、少人数で落ち着いた居場所に来ると、仲間に配慮しながら生活できることがよくあります。家庭や学校などの期待に「こつこつしなければならぬ」という觀念に囚われ自分を追い込んでしまつのかも知れません。

たいへん難しい事ですが、周囲にその子のそのままを受け入れられる人がいるかどうか、が分かれ目だと思います。(林)

今回の表紙

題字

澤井 広純さん

習字は小学校3年生から、中学校3年生までの6年間習っていました。30年ほど真面目に書いていっていませんでしたが、久しぶりに真剣に書いてみました。

写真

目谷 朋代さん(喬木カメラクラブ)

コガタスズメバチは見た目こそオオスズメバチに似ていますが、性格は蜂の中では比較的穏やかで巣の大きさもバレーボール程。すぐに攻撃はせず、巣の入り口からこちらを伺う様子が可愛らしいので写真を撮りました。

ご意見・ご感想 お待ちしております

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です！
 喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう！

☎ 0265-33-2002
 mail : syakai@vill.takagi.lg.jp

猛暑、酷暑の夏が過ぎ、ようやく秋らしくなった途端に朝の気温が2度。年々秋の期間が短くなっているように思う。しかし、そんな中地域ではあちこちでイベントが行われて活気にあふれている。出かけるのによい季節のはずだが、今度は週末になれば雨。なかなか思うようにはいかないが、前に比べると村内でも新しいことに挑戦する人たちが増えた。

暑さで出かけられなかった分、食欲に芸術にと、自分もその活気あふれる中に参加してみようと思う。



編集後記